岐阜県教育委員会

【総人口】1,917,872人
【主担当部局】
義務教育課
（公立幼稚園担当）
【主な関係部局】
子育て支援課
（保育所・認定こども園担当）
私学振興・青少年課
（私立幼稚園担当）
【自治体　関連ＵＲＬ】
https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/366556.html

	幼稚園			保育所		幼保連携型認定こども園	
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
施設数	0	49	90	181	145	34	54
園児数	0	2,124	12,798	13,028	14,174	1,913	6,462

	小学校			義務教育学校			合計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	
施設数	0	338 うち分校１	2	1	6	0	900
児童・生徒数	0	93,068	540	921	2,118	0	147,146

事業実施地域・協力園・学校	A〔岐阜地区〕北方町　公立：義務教育学校２校、幼保連携型認定こども園１園、保育所３園　私立：幼稚園１園 B〔西濃地区〕神戸町　公立：小学校１校、幼稚園・保育所併設園（幼児園）１園 C〔中濃地区〕可児市　公立：小学校１校、幼稚園１園、保育所１園　私立：幼稚園１園、保育所型認定こども園１園 D〔東濃地区〕土岐市　公立：小学校１校、幼稚園１園、保育所型認定こども園１園 E〔飛騨地区〕飛騨市　公立：小学校１校　私立：保育所１園
架け橋期のカリキュラム開発会議	【会議委員人数】 58名 【開催数】 県カリキュラム開発会議ＷＧ13回、全体会３回 地区別カリキュラム開発会議６回、研修会３回／地区 【委員属性】 県教育委員会５名、県知事部局関係課４名、養成大学研究者13名、研究団体代表者４名、公立小学校長４名、公立義務教育学校長１名、公立幼稚園長２名、公立幼保連携型認定こども園長１名、公立保育所型認定こども園長１名、公立保育所長２名、公立幼稚園・保育所併設園（幼児園）長１名、私立幼稚園長２名、私立保育所型認定こども園長１名、私立保育所長１名、指定市町教育委員会６名、指定市町福祉部局関係課５名、指定市町所管教育事務所５名
架け橋期のコーディネーター等	【配置人数】 ０名
架け橋期のカリキュラム	【開発主体】 A　北方町内全義務教育学校、幼児教育施設（学園構想） B　神戸町立南平野小学校区　C　可児市立東明小学校区 D　土岐市立泉西小学校区　E　飛騨市立古川西小学校区

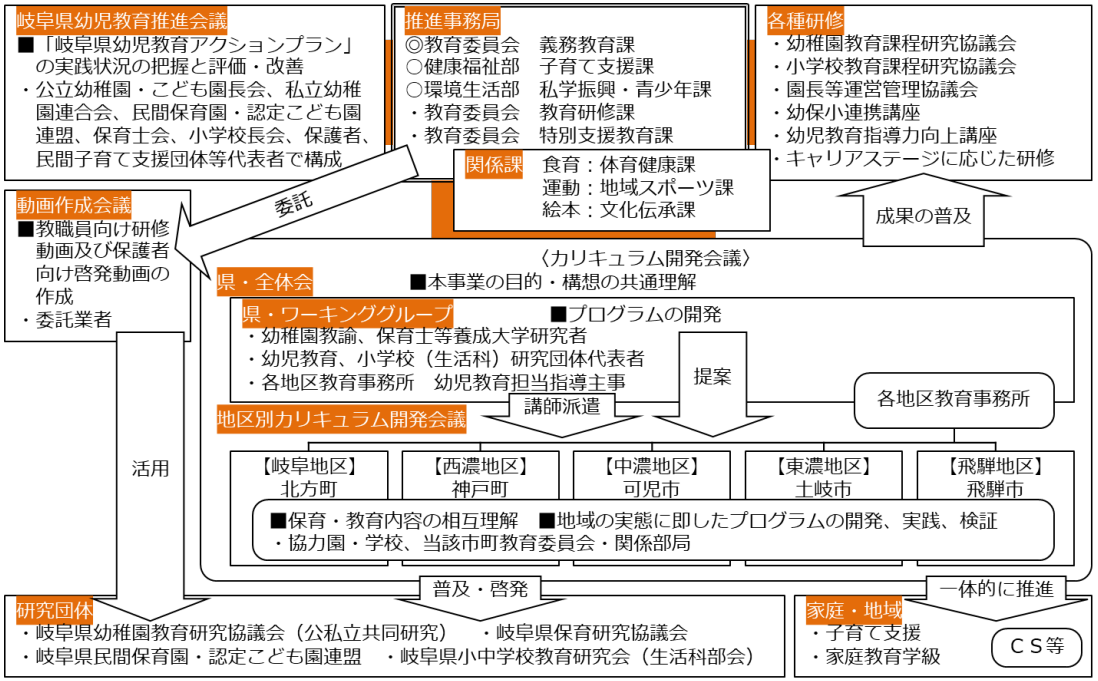
岐阜県教育委員会

1　調査研究課題

幼保小の連携・協働による「つなぐ・高める・支える」架け橋プログラムの開発・実践

2　調査研究体制の特色等

- 教育委員会と知事部局で推進事務局を構成し、連携して本事業を推進した。
- 県内の幼稚園教諭、保育士等養成大学から13人の研究者を招聘し、県カリキュラム開発会議ワーキンググループ（ＷＧ）を設置した。
- 地区別カリキュラム開発会議に対して、養成大学研究者を派遣し、地区の実態に即した研修を実施したり、各地区教育事務所幼児教育担当指導主事が、継続して伴走支援を行ったりした。
- 県内５市町において、１小学校と当該小学校に入学する子供が概ね通っている幼児教育施設を、施設類型、公私立を問わず協力園・学校として指定し、当該市町教育委員会等関係部局の指導のもと、地区別カリキュラム開発会議を設置した。
- 各種研修の充実、研究団体との連携により、研究成果の普及・啓発を図った。



【組織図】

3　架け橋プログラムの内容

① 組織体制・会議設置モデルの開発
② 接続期カリキュラムの開発
③ 保育・教育内容の相互理解を図る研修プログラムの開発
④ 子供同士の園・学校交流を位置付けた指導計画の開発
⑤ 認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラムの開発

- 上記①～⑤のプログラムについて、各幼児教育施設・小学校の実践を検証し、改善につなげた。

4　今後の課題と展望

- 「幼保小の架け橋プログラム」を、義務教育開始前後の５歳児から小学校１年生の２年間の取組としか捉えられておらず、０歳から１８歳の学びの連続性に配慮する視点が弱い。例えば、「幼保小の円滑な接続のための取組」に加えて「遊びと学びの探究的な視点からの見直し」という視点をもつことで、幼児教育施設においても小学校においても、全教職員にとって必然のある課題になると考える。
- ビジョンの明確化、体制整備、実態の推移の把握、指導・助言の実施により、教育委員会等関係部局のリーダーシップのもと、「幼保小の架け橋プログラム」を推進し、地域の文化に育てていく。

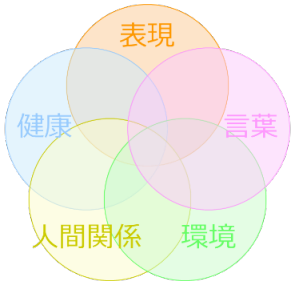
岐阜県教育委員会

1　カリキュラム開発の方針

- 　推進事務局においてカリキュラム開発の方針を決定し、「幼保小の架け橋プログラム」の取組を通して、各市町村（園・学校）の実態や「共に育みたい幼児・児童像」に即した、独自性のある「市町村版（校区版）接続期カリキュラム」の開発を推進することとした。
- 　上記方針を踏まえ、県カリキュラム開発会議ＷＧでは、各市町村（園・学校）が、接続期カリキュラムを開発し、見直すに当たり、「目的と手立てが混在していないか」や「必要事項を網羅しているか」、「幼児教育の特性が担保されているか」等を確認したり、幼稚園教育要領等解説の関係箇所に立ち返ったりすることができるサポートシートを作成した。
- 　本シートは、５領域と「特別な支援」の６枚から成り、１枚１枚の構成は「２　接続期カリキュラム開発サポートシートの構成」のとおりである。
- 　本シートは、教職員向け研修資料（冊子）に掲載するとともに、教職員向け研修動画（ＤＶＤ）に解説を収録し、配布した。

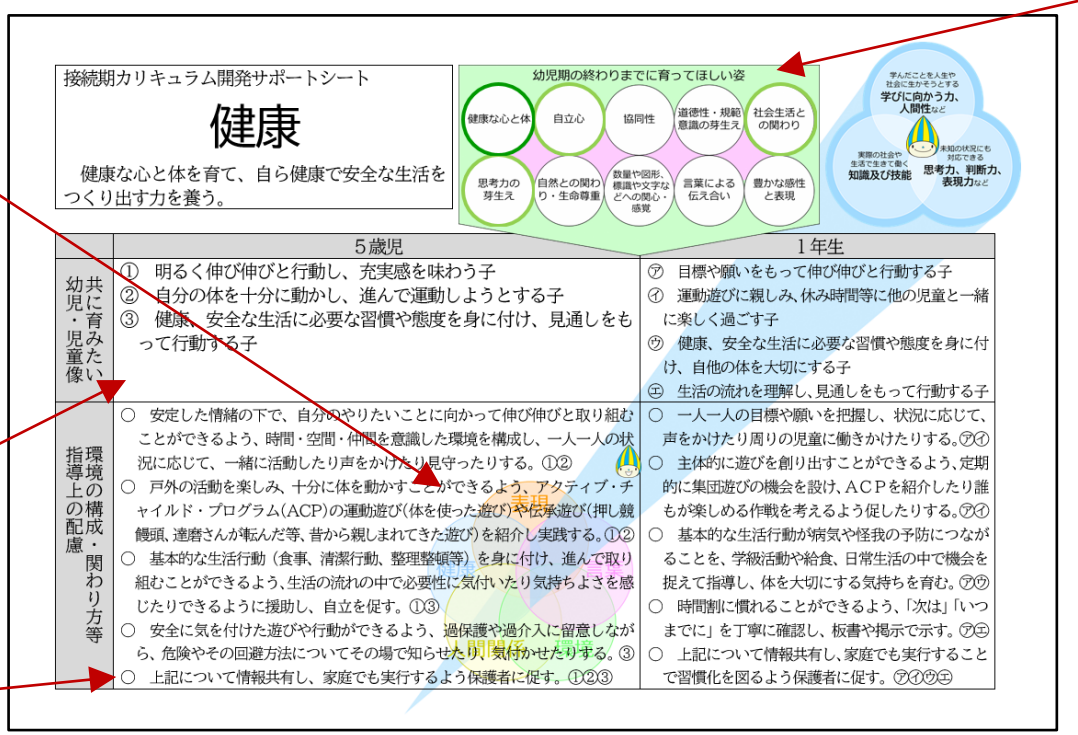
2　接続期カリキュラム開発サポートシートの構成　　※　教職員向け研修資料（冊子）参照

資質・能力の３つの柱、５領域、10の姿の関係性を図式化して明らかにすることで、遊びや生活を通した総合的な指導の中で一体的に育むことを示した。



５歳児の「共に育みたい幼児・児童像」は、各領域のねらい（育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもの）の３点に即して設定し、当該領域に関わって資質・能力が育まれた姿を、偏りなく網羅できるようにした。

「指導上の配慮」の最後の項目は、家庭に対して、園・学校が働きかけたり、配慮したりするとよいことを例示した。



接続期カリキュラム開発サポートシート

健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

学んだことを人生や社会に生かそうとする **学びに向かう力、人間性**など

実際の社会や生活で生きて働く **知識及び技能**

未知の状況にも対応できる **思考力、判断力、表現力**など

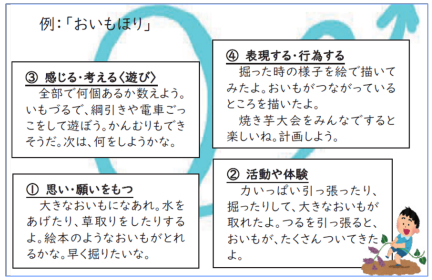
	５歳児	１年生
共に育みたい幼児・児童像	①　明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう子 ②　自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする子 ③　健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する子	㋐　目標や願いをもって伸び伸びと行動する子 ㋑　運動遊びに親しみ、休み時間等に他の児童と一緒に楽しく過ごす子 ㋒　健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、自他の体を大切にする子 ㋓　生活の流れを理解し、見通しをもって行動する子
環境の構成・関わり方等指導上の配慮	○　安定した情緒の下で、自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組むことができるよう、時間・空間・仲間を意識した環境を構成し、一人一人の状況に応じて、一緒に活動したり声をかけたり見守ったりする。①② ○　戸外の活動を楽しみ、十分に体を動かすことができるよう、アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)の運動遊び(体を使った遊び)や伝承遊び(押し競饅頭、達磨さんが転んだ等、昔から親しまれてきた遊び)を紹介し実践する。①② ○　基本的な生活行動（食事、清潔行動、整理整頓等）を身に付け、進んで取り組むことができるよう、生活の流れの中で必要性に気付いたり気持ちよさを感じたりできるように援助し、自立を促す。①③ ○　安全に気を付けた遊びや行動ができるよう、過保護や過介入に留意しながら、危険やその回避方法についてその場で知らせたり、気付かせたりする。③ ○　上記について情報共有し、家庭でも実行するよう保護者に促す。①②③	○　一人一人の目標や願いを把握し、状況に応じて、声をかけたり周りの児童に働きかけたりする。㋐㋑ ○　主体的に遊びを創り出すことができるよう、定期的に集団遊びの機会を設け、ACPを紹介したり誰もが楽しめる作戦を考えるよう促したりする。㋐㋑ ○　基本的な生活行動が病気や怪我の予防につながることを、学級活動や給食、日常生活の中で機会を捉えて指導し、体を大切にする気持ちを育む。㋒㋒ ○　時間割に慣れることができるよう、「次は」「いつまでに」を丁寧に確認し、板書や掲示で示す。㋒㋓ ○　上記について情報共有し、家庭でも実行することで習慣化を図るよう保護者に促す。㋐㋑㋒㋓

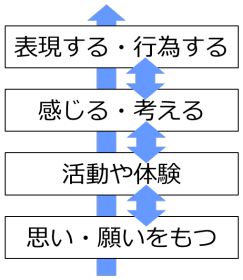
各市町村（園・学校）が、「共に育みたい幼児・児童像」を明らかにし、資質・能力ベースで分析することができるよう、各領域等と“主に”関わりのある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示した。幼稚園教育要領等解説に例示されている項目は緑色、岐阜県の実態も踏まえ、関わらせて指導することが期待されたり、特に相乗的に育まれていくと考えられる項目は黄緑色で囲んだ。

岐阜県教育委員会

指定市町	項目	接続期カリキュラム等の成果　　※　教職員向け研修資料（冊子）参照
〔岐阜地区〕北方町	成果物	・　「たくましい北方の子」を育てる15年間カリキュラムマップ ・　子どもの「育ちと学び」を円滑に接続するためのカリキュラム（自立心　協同性　思考力の芽生え）
	ポイント	・　０歳児から９年生までの学びのつながりをまとめ、架け橋期の位置付けを明らかにした。 ・　体験と表現が往還する活動のイメージが共有できるよう、事例の「学びや遊びのプロセス」を記載した。
	実践例	・　義務教育学校では、園で付けた力を発揮しながら学校生活に適応できるよう、教師が「園ではどのようにやっていたの？」と尋ねたり、スモールステップを設定したりした。やるべきことが終わった後も自分で考えて行動できる子が増えてきた。
〔西濃地区〕神戸町	成果物	・　接続期カリキュラム～「運動遊び」を軸として～（健康な心と体）
	ポイント	・　変化させながら続く幼児期の遊びの特性を矢印で記載した。
	実践例	・　小学校では、縦割り班遊びの内容やルールは、子供達同士で、話し合って決めるようにした。学年や個人の得手不得手を配慮したり、より楽しくなるように工夫したりする中で、上級生に対しても安心して相談できる子が増えてきた。
〔中濃地区〕可児市	成果物	・　可児市「笑顔の“もと”」接続期カリキュラム（協同性）
	ポイント	・　各園と小学校の特色を生かし、それぞれが「協同性」を育むことを意識して取り組む活動を記載した。
	実践例	・　幼稚園では、個々にじっくり味わってきた遊びが、友達との製作遊びへと発展し、たくさんの作品やゲームができてくると、みんなでお店屋さんを開きたいという声が上がったことから、遊び込むことが「協同性」を育んでいくことを改めて確認できた。

北方町





神戸町

ボール遊び（ボール・フリスビー等）　→　ボールゲーム（ドッジボール）

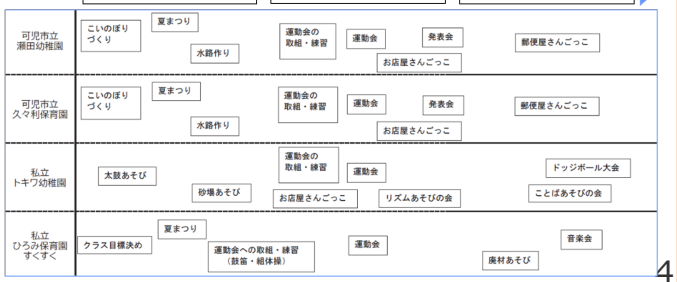
- 友達と一緒に投げたり蹴ったり受けたりして、遊ぶことを楽しむ。
- 距離を競ったり、的に当てたりして挑戦する。
- 友達や保育者とルールを考えたり作戦を立てたりして、遊ぶことを楽しむ。
- 友達と得点表などを作って、遊びが楽しくなるよう工夫する。
- ボールを使ってゲームを楽しむ。

集団系

操作系

可児市

協同性：自分の考えを相手に伝える。→ 友達と共通の目的に向かって協力する。→ 譲り合ったり折り合いをつけたりする。



岐阜県教育委員会

指定市町	項目	接続期カリキュラム等の成果　※（別添）教職員向け研修資料参照
〔東濃地区〕土岐市	成果物	・　子どもの育ちと学びをつなぐ「接続期マップ」～「言葉による伝え合い」を重点として～ ・　子どもの育ちと学びをつなぐ「連携のあしあと」 ・　開発の手順と解説
	ポイント	・　授業や日常を通して目指す「第１学年修了時までに育ってほしい姿」記載し、指導の方向性を明らかにした。
	実践例	・　幼稚園では、「先生」「ペア」「グループ」「全体」と伝え合いの環境を意識するようにした。進んで自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えを聞いて、共感したり提案したりできる子が増えてきた。
〔飛騨地区〕飛騨市	成果物	・　飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラム（運動能力　仲間と関わる力　あきらめない心）
	ポイント	・　活動を通して育む「仲間と関わる力」の系統性を記載し、５歳児後期と小学校入学期を一つの段階として位置付けた。
	実践例	・　保育所では、鉄棒で技に失敗したり、竹馬で転んだりしても、再挑戦する子が増えたと気付き、できる・できないだけではない、子供たちの内に育まれている力に着目することの大切さを改めて認識できた。

土岐市

卒園時までに育ってほしい姿	第１学年修了時までに育ってほしい姿
◇　先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付ける。 ◇　伝える相手や状況に応じて、経験したことや考えたことなどを相手に分かるように工夫しながら言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いて理解したりして、言葉による伝え合いを楽しむ。	◇　人との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重し、目的意識や相手意識をもって多様な方法で交流し合う。 ◇　相手のことを思い浮かべたり、相手の立場を気にかけたりするとともに、伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法を決める。 ◇　自分のことや伝えたいことが相手に伝わることや、相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できることのよさや楽しさが分かる。

飛騨市

幼児期（アプローチカリキュラム）				小学校入学期（スタートカリキュラム）		１年修了時
４月～５月	６月～８月	９月～１２月	１月～３月	入学～４週間	５週目～８週目	９週目～３月末
担任の説明を聞いて遊びのルールを理解し、集団の中で意欲的に遊ぶ。	友達の頑張りを認め、友達を意識しながら、きまりを守って遊ぶ。「あの子のように」「負けないぞ」	友達や担任と関わり合いながら遊ぶ中で、自分の気持ちや考えを言葉で伝えられる。「分からない」「もっとこうしたい」		仲間と関わり合いながら、よりよい方法を考えて遊ぶ中で、相手のことを考えた声をかけられる。「こうするといいよ」「～しよう」		
ＡＣＰ 朝の運動の時間、学年の活動で実施				ＡＣＰ 朝活動、体育の準備運動で実施		

認識と取組の社会的共有を目指す発信プログラム

・　「幼児期」「架け橋期」の保育・教育について、保護者や地域住民に広く知ってもらいたいという指定市町（協力園・学校）の関係者の願いを受けて、モデル事業最終年度に保護者向け啓発資料（リーフレット）及び動画（ＤＶＤ）を制作した。構成は次のとおりである。

〈第１章〉はじめに
〈第２章〉実践の具体の紹介と説明
①　遊び　②　アプローチカリキュラム　③　スタートカリキュラム　④　子供同士の園・学校交流　⑤　幼保小合同研修・会議